

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2023年9月分)

2023年10月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[国政与党による会合\(6日、25日\)](#)

●[スレブレニツァの虐殺追悼センターの機能拡大に係るボン・パワー行使\(20日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[BH連邦下院議長の辞任\(25日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[ドディックRS大統領の起訴に対する抗議集会\(1日～\)](#)

●[RSにおける分離主義的動向の高まり\(7日～\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[コナコビッチ外相の国連総会出席\(18日～22日\)](#)

●[コムシッチ大統領評議会議長の国連総会における一般討論演説\(20日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ザラツィン独西バルカン特使のBH訪問\(6日～7日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[同志社大学学生の日本大使表敬\(1日\)](#)

●[クリシュト閣僚評議会議長表敬\(13日\)](#)

●[令和 4 年度草の根無償資金協力事業「マグライ市マグライ診療所救急車整備計画」引渡式\(21日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●国政与党による会合(6日、25日)

6日、国政連立与党による会合がサラエボで実施され、BH裁判所法の採択、EU加盟に向けた改革等についての協議が行われた。裁判所法に関して控訴裁判所の設置場所を巡って折り合いがつかず、特段の合意には至らなかった。

25日には、モスタルで引き続き国政与党の会合が実施された。その際、ドディックRS大統領は、OHR閉鎖、BH憲法裁判所からの外国人判事の排除等を含む「BHの主権に関する合意」をBH議会で採択する旨提案した。今後の会合も、特段の合意等には至らなかった。

●スレブレニツァの虐殺追悼センターの機能拡大に係るボン・パワー行使(20日)

20日、シュミット上級代表はスレブレニツァの虐殺追悼センター設立20周年記念式典出席のためポトチャリを訪問。記者発表において、同センターにおける教育プログラムの充実等をはかるため、外部研究者との協力、対外発信のためのプログラム等を充実させるための追悼センター法の改正を実施する旨明らかにした。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH連邦下院議長の辞任(25日)

25日、マリノビッチ＝レピッチBH連邦議会議長(我々の党(NS)所属)は、健康上の理由から辞任を発表した。後任は未定であり、今後BH連邦下院の委員会では候補者が決定される予定。

イ スルプスカ共和国(RS)

●ドディックRS大統領の起訴に対する抗議集会(1日～)

BH検察がドディックRS大統領及びルキッチRS官報事務所長官を起訴したことに対し、9月1日以降、RS各地のエンティティ境界付近で抗議集会が実施されている。

第1回目の抗議集会は東サラエボ、ドボイ等で行われ、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー及びビシュコビッチRS首相が参加した。

抗議への呼び掛けにおいてエンティティ境界を「国境」も意味する語で呼称していることについて、シュミット上級代表はあくまでエンティティ境界は行政上の境界であるとして批判を行った他、18日にはツビヤノビッチ・メンバーに対する警告書間を发出した。

●RSにおける分離主義的動向の高まり(7日～)

7日、シュミット上級代表が独紙の取材に対して国有資産問題の解決案につき述べたのを受け、ドディックRS大統領は、シュミット上級代表が解決案を押しつける場合は、RSは分離独立をすると発言したほか、シュミット上級代表には上級代表としての正当性がなく、RS域内に入る場合は逮捕するとの発言を行った。

また、12日にはコシャラツBH副首相兼通商・経済関係大臣(セルビア系)の呼び掛けで各政府機関の長官等のセルビア系関係者50名が東サラエボに集まり、セルビア系閣僚及び公務員の国政離脱可能性についての協議が実施された。

●ドディックRS大統領のSNSD党首再選(30日)

30日、ドボイにおいてSNSD党首選が実施され、ドディックRS大統領(SNSD党首)が再選された(対立候補なし)。再選後の演説において、ドディック大統領は、BH連邦とRSの平和的分離に係る合意を結ぶ可能性につき言

及した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●大統領評議会3メンバーのブルド・ブリュニプロセス会合出席(11日)

11日、BH大統領評議会3メンバーはスコピエで開催されたブルド・ブリュニプロセス首脳会合に出席し、各国首脳等と会談を実施した。会合では、西バルカンへのEUの拡大、インフラプロジェクトの促進の重要性が指摘されたほか、脱炭素化、若者の国外流出等の重要課題が議論された。

●コナコビッチ外相のストラスブル訪問(12日～13日)

12日～13日、コナコビッチ外相はストラスブルを訪問し、欧州議会会合に出席した。同外相はヴァールヘイ欧州委員及びヨハンソン欧州委員と会談し、EUによる次期拡大パッケージ等につき意見を交わすとともに、BHのEU加盟プロセスにおける活発な改革に言及した。さらに、コナコビッチ外相はBH内政につき、RSの動向が国際社会の批判及び関与の強まりを招いていると指摘した。

●コナコビッチ外相の国連総会出席(18日～22日)

18日～22日、コナコビッチ外相は国連総会に出席。安保理において演説を実施し、ウクライナにおける人道上の危機について指摘するとともに、ウクライナの主権及び領土一体性の尊重について再度強調した。

その他、総会期間中、コナコビッチ外相はボレルEU上級代表との会談、南東欧協力プロセス大臣級会合、ユーゴスラビア継承国大臣級会合、西バルカン・伊・クロアチア・スロベニア大臣級会合、アドリア憲章(A5)諸国会合等、

多くの会合に出席した。

●コムシッチ大統領評議会議長の国連総会における一般討論演説(20日)

20日、コムシッチBH大統領評議会議長(クロアチア系メンバー)は、国連総会において一般討論演説を行った。コムシッチ議長は、BHにおける民族に基づいた政治システムがセルビア及びクロアチアによるBHへのコントロールに利用されていると述べ、本年8月のコバチェビッチ判決も含めた欧州人権裁判所の判決の履行を進め、民族によらない国家的な政治システムの構築が必要であると主張した。

(2) 二国間関係

●ザラツィン独西バルカン特使のBH訪問(6日～7日)

6日～7日、ザラツィン独西バルカン特使がBHを訪問し、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク系メンバー、クリシュトBH閣僚評議会議長及びドディックRS大統領とそれぞれ会談した。ベチロビッチ・メンバー及びクリシュト議長は、EU加盟に関するドイツの支援への謝意を述べ、今後の改革への取り組みに対する強いコミットメントを表明した。

ドディックRS大統領は、ドイツからのインフラ4案件の中止につき、代替となる資金調達先がある旨述べつつ、RSに対する国際社会からの圧力には屈さず、シュミット上級代表の正当性も認めないとの立場を改めて強調した。

●コナコビッチ外相の訪米(25日～28日)

25日～28日、コナコビッチ外相はワシントンを訪問し、ショレ米国務省特別顧問、西尾昭彦・世銀開発金融総局担当副総裁、ワグナー米下院外交副委員長等との会談を実施した。コナコビッチ外相は、BH内政及びBH・米関係、バルカン地域に対するロシアの影響等につき各者と意見を交わし、現BH閣僚評議

会による改革プロセスの履行は順調であり、
本年末までにEU加盟交渉を開始できるとの
期待を表明した。

(3) 日・BH関係

●同志社大学学生の日本大使表敬(1日)

1日、海外研修のためBHに滞在中の、
同志社大学の月村太郎教授及び富樫耕
介准教授のゼミに所属する学生が杵渚駐
BH日本大使を表敬した。学生からは、紛
争のイメージが強かったBHを初めて訪
れ、治安の良さやホスピタリティに感銘を
受けているとの発言があり、日本の外交
活動への強い関心が示された。杵渚大使
は、今般の訪問を歓迎し、当国への滞在
を通じて歴史・政治・文化への知見を深
め、今後の学びやキャリア形成に生かす
ことを期待していると述べた。



(写真: 杵渚大使と学生一行)

●クリシュト閣僚評議会議長表敬(13日)

13日、杵渚駐BH日本大使は、クリシュ
ト閣僚評議会議長を表敬し、両国関係及
びBHの発展につき意見交換を行った。ク
リシュト閣僚評議会議長は、日本及び国
際社会と協調し、EU加盟に向けた更なる
改革に取り組んでいくと強調し、日本から
の多岐に亘る支援への謝意を表明した。



(写真: 杵渚大使とクリシュト議長)

●令和 4 年度草の根無償資金協力事業
「マグライ市マグライ診療所救急車整備計画」引渡式(21日)

21日、杵瀨駐BH日本大使は、令和4年度草の根無償資金協力事業「マグライ市マグライ診療所救急車整備計画」の引渡式に出席した。

日本政府は同診療所に対し、救急車2台の整備のために76,912ユーロ(約980万円)を供与した。本計画により年間約1,000人の患者スムーズな緊急搬送が可能となる。



(写真:マグライ診療所)

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2023年8月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比0.5%のプラス。また、前年同月比0.3%のプラス。

●雇用／失業率

2023年7月の失業者登録数は35万461人(うち女性20万5,505人)で、前月比1.1%プラス。前年同月比で3.1%マイナス。

●平均給与

2023年7月の平均給与(手取り)は1,262 KMで、前年同月比で11.3%のプラス。

●消費者物価数

2023年8月消費者物価指数は前月比で1.0%のプラス。また、前年同月比で平均4.7%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比で平均0.6%の上昇。

●貿易収支

2023年1月～8月のBHからの輸出総額は112.27億KM(前年比5.6%減)、BHへの輸入総額は180.283億KM(前年比1.3%減)。貿易収支は75.6億KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●関税の一部差し止め及び緩和(19日)

19日、BH閣僚評議会は、繊維製品、化学製品、金属、食品等の68品目につき、BHへの輸入に際して関税の軽減を行う旨決定した。本決定はBH内で製品の生産に使用され、BH国内市場での調達が困難である原料を対象とし、2024年12月31日まで有効。なお、BHとFTAを締結している国は対象外。

(3)経済協力

●Power of Sustainability 2023 の開催(21日～22日)

21日～22日、モスタルにおいて、西バルカ

ン及びEU諸国の政府機関関係者、企業関係者等による「Power of Sustainability Festival」が開催され、BH内外から出席者が集まり、持続可能な開発を念頭に置いた今後の対BH・西バルカン投資等につき意見を交わした。主なテーマは西バルカン地域の脱炭素化、CO₂削減、観光業の持続可能な発展等について。

(4)民間セクター

●国内銀行による中小企業支援(28日)

28日、ボスニア国際銀行(BBI)及びBH連邦開発銀行は、中小企業を対象とした融資パッケージを発表した。同パッケージは、コロナウイルスのパンデミック中に20%以上の業績低下を経験した中小企業、また女性による経営、もしくは女性が過半数を占める中小企業を対象としており、返済期限を10年とする、好条件での融資を提案している。本プロジェクトは、世銀によるプロジェクトの一環として実施される。